

平成30年度
学校関係者評価結果報告書

令和元年6月5日

学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校

学校関係者評価委員会報告書

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校は、平成31年5月28日に「平成30年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和元年6月5日作成
学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員出席者 定員6名

- (1) 榎本 耕（社会福祉法人桐仁会 かしわ園施設長）
- (2) 小磯 英次（社会福祉法人たけのうち福社会理事長）
- (3) 榊原 直哉（社会福祉法人福愛会 藤井保育園園長）
- (4) 柁屋 富治郎（町田市接骨師会会長）
- (5) 松坂 健志（社会福祉法人東の会みたけ施設長）

学内出席者5名

- (1) 瀧 将仁（校長）
- (2) 山根 満（教務課課長）
- (3) 蒔田 あゆみ（教務課主任）
- (4) 吉田 貴博（教務課）
- (5) 林 希美（教務課）

3. 会議の概要

(1) 校長挨拶

開会挨拶の後、職業実践専門課程及び学校関係者評価委員会についての概要、趣旨説明。

(2) 出席委員紹介

(3) 学内出席者紹介

(4) 本校概要説明

本校の沿革、学科、生徒数、就職状況等について説明。

(5) 平成30年度自己評価結果について

自己点検・自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明をした後、出席委員との意見交換、質疑応答が行われた。

4. 学校関係者評価結果

大項目	学校関係者評価
基準1 教育理念 目的・育成人材像	評価：適切である。 課題：学校が20周年を迎え、学校運営の将来構想について、外部への更なる周知徹底をしていく必要がある。 改善策：配布物やHP等による周知の機会を増やしていくことがあげられる。
基準2 学校運営	評価：適切である。 課題：更なる業務の効率化が必要であると感じる。 改善策：業務効率面では新たな教務システムの導入が、平成30年度から平成31年度となったが、導入を今年度前期中に行い、業務の効率化を推進していく。
基準3 教育活動	評価：適切である。 課題：現場に沿ったカリキュラム構築が必要。教員の指導力向上が必要。 改善策：実習指導の強化として、実習前に施設見学に行くことを教育課程に組み込んだ。これにより、学生の実習に対する良いイメージを印象付ける狙いがある。施設での実習について学生が想像する実習と実際の実習とで乖離が生じる場合があるので、留意する必要がある。教員についても現場を知ったうえで教育活動に当たるべきと思慮する。
基準4 学修成果	評価：適切である。 課題：就職率の向上が課題。卒業生の実態把握についても、物足りない状況。 改善策：就職希望の学生の就職率100%を目標に、キャリア支援課の体制を強化している。特に1年次に就職ガイダンスの開催や個別指導を通じて就職率向上を図っていく。 卒業生の実態把握について、求人検索システムの整備や、企業や同窓会との連携を深め、HP・SNS等を活用し、更なる充実を図る。
基準5 学生支援	評価：適切である。 課題：平成30年度の退学者数は前年度より増加。退学理由の分析を行い、学校の教育活動の改善を行うとともに、スクールカウンセラーやメンターの配置により、学校生活への不安解消を図る。特に1年次でのフォロー体制を強化していくことが必要である。

<p>基準6 教育環境</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生満足度向上に向けた施設設備の適切な更新、防災対策の強化が必要。</p> <p>改善策：定期点検をさらに強化して、必要な設備等があれば更新する。引き続き、災害時の防災マニュアル等を見直す。</p>
<p>基準7 学生募集と 受け入れ</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：他校との差別化。受験者確保による入学生の質の向上。</p> <p>改善策：高等学校への訪問を定期的に行っており、当該高校出身者の学習状況や就職状況等を伝え、高校との信頼関係を構築している。若年層の人口減少に伴い、福祉領域を志望する学生が減ってきている。高校だけでなく中学生からの広報活動を検討していくべき。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：財務基盤の安定化には、安定した入学者を確保し、かつ、退学者の抑制を図ることが最重要課題である。加えて、経費の見直しや効率化による経費削減に努めていく必要</p> <p>改善策：入学者の安定的な確保とともに退学者抑制の施策の強化を図る。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：教育情報の公開は一定の水準で実施できているが、外部の意見も積極的に取り入れ改善していく必要がある。</p> <p>改善策：HPのリニューアルを行ったが、教育情報の公開を始め、外部の意見を取り入れ、適時改善を行っていく。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：地域貢献の面で、学園祭以外での地域住民との交流持つ機会が少ない。</p> <p>改善策：今年度は20周年記念事業として、9月に記念講演を開くことを予定している。</p>

3. 平成30年度 学校関係者評価（平成30年度の自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての 全体的な評価・意見等	昨年と比べても改善への取り組みが見られ、学校がより良くなっていると考えます。ただし、大項目で「適切」といった場合においても、小項目でひとつでも不適切であった項目に対しては、今後、課題を解決しつつ改善に努めていただきたい。また、各業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会、学校内の委員会等でしっかり議論をしていただき、教育に反映していただきたい。